

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・資料を2つの観点から，二次元の表にまとめることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・表の各欄に入る数の意味を説明する学習をしている。

ネコ,イヌのすききらい調べ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 出席番号 | ネコ | イヌ |
| 1 | ○ | ○ |
| 2 | × | ○ |

≪学習問題≫

学級みんなの，ネコとイヌのすききらいについて調べた結果を，次の表にまとめましょう。

また，表をもとにいろいろな問題をつくりましょう。

(例　ネコとイヌのどちらもすきな人は何人ですか。)

教材研究ノート№4-D-2

≪学習問題≫



|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| イヌネコ | すき | きらい | 合計 |
| すき |  |  |  |
| きらい |  |  |  |
| 合計 |  |  |  |

主眼

授業計画･実施記録

②見通し：それぞれの人が，表のどの欄に入るかわからない。

→どんな答え方があるか考えて，表の欄と対応させればよい。

②学習課題：各欄に入る好き嫌いの組合せを考えて，調べた結果を表にまとめ，問題づくりをしよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：調べた結果を表に整理して追究する。

④共同追究前半（学習問題の解決）

「表のつくり方を説明しよう。」

→「好き嫌いの組合せは４通りあり，各欄に対応しているので，それぞれの数を数えた。」

「表からつくった問題を解き合いましょう。」

→「ネコが好きでイヌが嫌いな人は何人いますか？」，「表の中の15という数は何を表していますか？」など

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| イヌネコ | すき | きらい | 合計 |
| すき | 7 | 6 | 13 |
| きらい | 15 | ４ | 19 |
| 合計 | 22 | 10 | 32 |

④共同追究後半（思考を深める）

「表の一部を消しても，表を元に戻すことはできるかな？」

→「縦横の合計がわかっているから，空欄の数を求められる。」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| イヌネコ | すき | きらい | 合計 |
| すき | 7 |  | 13 |
| きらい |  |  | 19 |
| 合計 | 22 | 10 | 32 |

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・好き嫌いの組合せが，表の縦横の組合せに表されているので，整理したり読んだりしやすい。

・幾つか数が欠けていても，表の仕組みを使って求められる。

⑥定着･活用問題

おとなと子どもで，野球とサッカーのどちらが好きかを調べたら，右の表のようになりました。ア，イ，ウにあてはまる数を求めよう。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 野球 | サッカー | 合計 |
| おとな | ア | ウ | 7 |
| 子ども | イ | 5 | 8 |
| 合計 | 8 | 7 | 15 |

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・落ちや重なりがないように資料を表に整理することが大切なので，数え間違いをなくすために，資料に色や印を付けていくなどの工夫について，前時までに指導しておきたい。

・ただ資料を表に整理していくのではなく，2つの観点から分類整理するとき，起こり得る組合せが４通りであることを，二次元の表の仕組みと関連付けて論理的に理解することを大切にしたい。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】